

---

# 義妹とのにちじょう。

りえくと

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

義妹とのにちじょう。

### 【Nコード】

N1950N

### 【作者名】

りえくと

### 【あらすじ】

俺と義妹の日常

少し？毒舌だが可憐で清楚な義妹とちよっと？危ない義兄との会話

**（前書き）**

夏の暑さにむかつときてやりました、反省はしていません。  
生温か：やっぱり温かい目でみてください

「夏といえば海である」

高らかに宣言しよう、夏といえば海だ。異論は一切認めん  
アイスやら肝試しやら花火等々色々があるが、俺は一番海がいいんだ  
…何故かって？ 水着だよ諸君。色々なアングルから…想像もとい  
妄想するだけで涎が垂れてきそうじゃないか

「というわけだ、海へ行こうじゃないか我が義妹よ」

「何がというわけで、なんですか。頭がおかしいんじゃないですか  
？ とうとう夏の暑さにやられてしまいましたか…可哀そうです」

うぐっ…相変わらずきついことを仰いますな

紹介しよう。毒舌だが可憐で美しくお淑やかなこの女の子は我が義  
妹である

昔俺の親父の従弟がその奥さんと旅行していたら不運なことに交通  
事故にあって亡くなり、その娘の引き取り先を話し合った結果俺の  
家に引き取られることになったんだ

そんな俺の両親はある日突然「今から旅に出るぞ、わっはっは」と  
か「あなたと一緒に色々なところを見に行きたいわ」とか言い始め  
家から去って行った。都合のいいことに口座には毎月十分なお金が  
振り込まれている

昔から家事とかは得意だったから生活には困らなかったが両親の唐  
突な行動に呆れていた

今となってはもう些細なことだが。愛しの義妹と暮らせるなんて…  
というか暮らしている俺は幸せ者だ

「じゃ、じゃあ…海にという計画は無しなのか」

がつくりだ…義妹と砂浜で追いかけてあったり海水を掛けあったり、できればぼろり　なんて展開をそうぞ…妄想していたんだが  
そんな俺の問いを義妹は華麗にスルーし乾いた洗濯物をせつせと畳んでいた

義妹が洗濯物を畳み終わった今現在の時間は正午だ

昼飯は俺が作ることにしているので、簡単かつ短時間で作れるチヤーハンとラーメンにする

料理をしている最中に「ふっふん」と鼻歌を歌っていたらテレビを見ていたらしい義妹に「五月蠅いしへたくそです、兄さん」と言われてへこんだのは秘密だ

出来あがった昼飯を食べ、ささつと茶碗を洗い終わったのとは特にな

俺はまだ海に一緒に行きたいという願望を捨て切れていないので義妹に掛け合ってみる

「なあ、やっぱり海に　」

「嫌です」

一刀両断されました

目から何か流れている気がするが決して涙ではない。　ないっとなんだ

「じゃあ、部屋に帰るので失礼します」

そう言ってテレビを消しそそくさとリビングを出て行った義妹  
ぼつん、と一人残され暇になる

何をしようか悩んだ末、少し眠たかったのでソファで寝ることにした

自分の部屋で寝るのもいいが二階はやはり暑い…扇風機やクーラーといった涼むための物もあるが気分的に使わない

「良い夢が見られますように…ぐへへ」

やばいやばい、邪な想像をしてしまった…義妹とげふんげふんとりあえずお休みと呟いて目を瞑る

「さん、兄さん」

な、なぜだ…可愛い声が聞こえるが揺れている…地震か?!

「バカなこと言っていないで起きてください、兄さん」

目をあけてみると義妹の顔が近くにあった

しようと思えばキスが出来そうな距離だ…後が凄く怖いのでしないが

「な、何故俺の考えていることが…はっ、以心伝心」

言った瞬間哀れむような視線でみられた

ような、ではなく実際哀れんでいるみたいだ…哀れみが増した

「その荷物はなんだ？」

義妹の足元にある鞆がとても気になる

ま、まさか彼氏が居て今からデートとかかつ！

神よ、そこまで俺が憎いのか…恨むぞ

「あ、その…えと、出かけるんです」

義妹は少し頬を紅く染め視線をさまよわせた後そう言った

「誰だ、誰となんだ！」

たぶんこの時の俺の顔は凄く怖かったのだろう、義妹の笑みが引き  
攣っている

「それは…に、兄さんです」

前言撤回、神よ…ありがとう

「そ、それで何処へ行くんだ？」

頬が緩んでいるのが自分でも分かる

今なら母さんの壊滅的料理を食べても平気でいられそうだ

「海です」

そう義妹が言った瞬間の俺の行動は神が目を見張るほどの速さだっ  
ただろう

さっと身を翻し自分の部屋から海水パンツやらバスタオルやらビー  
チボールやらを鞆につめ義妹のもとへと戻ってきた  
有した時間は5分にも満たないだろう

「よし、行こう」

こくりと義妹がうなずき玄関を出るが、そこで問題が起きた

雨が降っているのである…しかもざあざあ音をたてているこれは豪雨というやつだ

「神様のバカやろー！ーっ！」

ふふん、思いつきり叫んでやった

近所迷惑なんて知らん、恨むなら神を恨め

「さ、さっきまでは降ってなかったですよ…残念です」

ほんとに残念だ…だが、まだ夏休みは長い

まだいけないとは限らないんだ…！

心の中で自分を励まし、応援する

「今日は家でのんびりとするしかないか」

落胆して肩をがくつと下げた俺を義妹が元気づけるように明るい声で言った

「また今度行きましょう、兄さん」

そう言ってほほ笑んでくれる義妹は俺の最高の…家族だ

俺はこんな義妹が傍にいてくれることが、何よりも幸せだ  
さて…これから何をしようか

これは、そんな俺と義妹との楽しい日々の「コマ  
いつかは俺と妻との楽しい日々になることだ

「そんな日はきませんから」



「折角綺麗に終わろうと思ったのに台無しじゃないか」

ほんとに…幸せな日々だ

（後書き）

ふう…勢いって、怖いですね

誤字脱字ありましたらご報告よろしくお願いします

できればご感想等いただければ嬉しいのですが、批判等は作者がガラスのハートの持ち主ですので遠慮お願いします、すいません  
また何処かでぬっ、と現れたら「ああ、またお前か」とでも思っ  
てやってみてください。それでは

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1950n/>

---

義妹とのにちじょう。

2010年10月22日00時51分発行